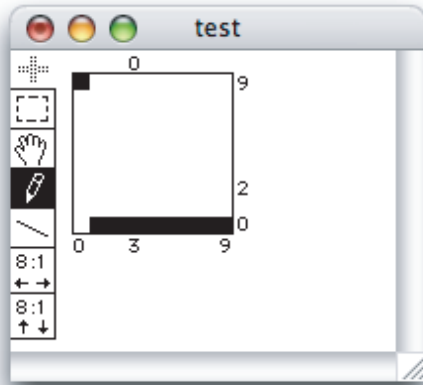


■ table オブジェクトについて



tableオブジェクトとは
XY座標の概念を使って、

- ・ 値を保存したり
- ・ 値を呼び出したり

、 、 することが出来るオブジェクトである

← 例

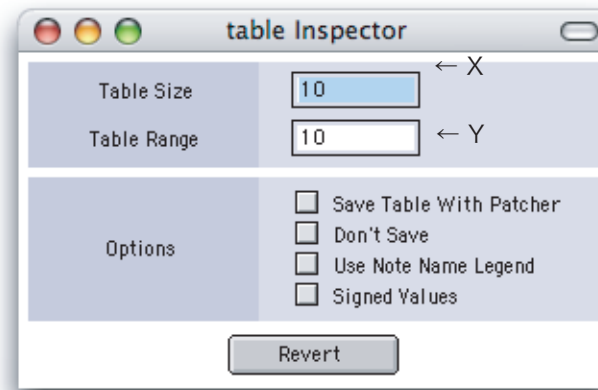
X (横軸) = 0
Y (縦軸) = 9

場所 X=0の所に、値 Y=9 を保存した例

(↑この画面は tableオブジェクトをダブルクリックすると表示)

■ 座標の大きさを設定するには？

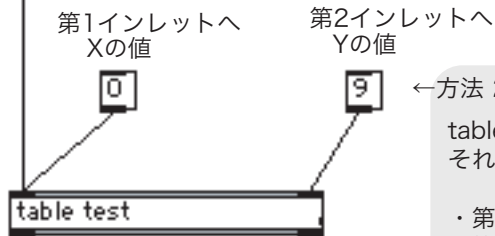
初期設定では X, Yともに 0~127の大きさだが、
table Inspector ウィンドウで、座標の大きさを設定することが出来る



(↑この画面は tableオブジェクトを指定した上で、
Objectメニュー → Get Info で表示) (ただし Max/MSP Jitter ver. 4)

■ 値を保存するには？

←方法1 「リストメッセージ」
「XY」からなる リストメッセージを
第1インレットに入力して値を保存する



←方法2 「2つのインレットにそれぞれ入力」
tableオブジェクトの2つのインレットに
それぞれ X と Y の 値を入力して保存する

- ・ 第1 インレット = Xの値
- ・ 第2 インレット = Yの値

(重要)

ただし、必ず 第2インレット → 第1インレットの
順番で入力せねばならない。

■ 値を呼び出すには？

0 Xの値を入力すると、



9 Xに対応したYの値が出力される (呼び出される)